

# 「山上の垂訓 3」

「山上の垂訓」は、天国の国籍を与えられた者の憲法である。天国の国籍を持つ者とは地上に生きてはいるが、十字架により救われ、本国の王である神に従い、ご聖霊により生きる者である。「山上の垂訓」の、特に「敵を愛せよ」とメッセージが語られるとき、私たちは自分の内側に、聖書にあるツアラアトのような醜く汚い自分を示される。「やられたら、やりかえしたい」という思いを押さえられない自分である。しかしそれは、唯一の可能性であるキリストに向かわせ、心をキリストに明け渡すなら、敵をも愛するという奇跡を私たちは体験する事ができる。「みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません」(ヤコブ 1:22) とある。否定的な思いが湧いてきたならそれに捕らわれてはいけない。悪い者に欺かれて、悪い心でいるのが当然だと思い、自分を欺いて悪い心を温めていてはいけない。

主の元に飛び込み祈るなら、不思議に憤りが相手を赦す祈りに変えられるのである。主はその人こそ、真の自由な人であると言われる。私たちは主にあつて自由な天国の民なのである。

## [聖書の学び]

### I、主なる神に喜ばれる生き方 (マタイ 5:44~48)

#### 1、隣人だけではなく、敵をも愛すること。

(1) 旧約律法の正しい理解と解釈について、(v43)

「あなたの 隣人 を愛し、敵を憎め」…… 旧約聖書のみことばではない。

① **十戒風ことわざ**：ユダヤ人だけを愛し、異邦人を積極的に憎むことを付け加えた。  
(ユダヤ人の言い伝え)

② 「目には目を…」のある箇所での、十戒の正しいみことば。(レビ記 24:19~21 旧 223)

「…目には目を、歯には歯を。人に傷を負わせたのと同じように、自分もそうされなければならぬ」

償いは同等のもので償う。それ以上の復讐を禁止するというみことばである。

③ 主イエスが隣人と言われるとき----- 「よきサマリヤ人」のたとえ

(ルカ 10:25~37 p136)

隣人とは…助け合う人同士。(同胞だけではなく、直ぐ側にいる人だけでもない。)

④ 旧約にも、敵が困っていたら、嫌でも、助けなければならない律法がある。

(出エジプト記 23:4~5 旧 p140)

(2) 主イエスの語られた天国民の積極的な憲法 (v44)

① マタイ 5:39 と比べてみましょう。「悪い者に 手向かってはいけません」

主は消極的な無抵抗ではなく、  
積極的な行動を求められる

マタイ 5:44 は、「自分の 敵を愛し、自分を迫害する者のために 祈りなさい」

- ② 敵を愛し、自分を迫害する者のためにできること…行動はできなくても、  
祝福の祈り、とりなしの祈りを始めることはできる。

## 2、敵を愛することの勧め (マタイ5:44~47)

### (1) 天の父なる神の子(養子) にして頂いた

- ① 天の父なる神の寛大さを知る… 大自然の恵みの公平さ。(v45)

\* チャンスや恵みは、全ての人に公平に与えられる。

- ② 父なる神の子… 父親である神に似る者とされているから、似ることができる。

### (2) 天の父なる神の子(養子)は、聖霊により敵をも愛することができる。

- ① 自分を愛してくれる人を愛する。(v46)

(人々から罪人と嫌われる信仰がない取税人でもできる)

自分の兄弟(同胞)にだけにあいさつする。

(敵である異邦人も同じ事をしている) (v47)

} こういうことは当然で、  
「愛する」とは言わない。

- ② 生まれながらの人はできないが、父なる神の子(養子)とされた者はご聖霊により、  
敵をも愛することができる。

[参照:ローマ 12:19~21 p318]

## 3、天の父なる神の完全な見本。 (マタイ5: 48)

- ① ひとり子を世に遣わされた。
- ② 十字架により、信じる全ての者の心に救いを与えられる。
- ③ 信じる者の心にご聖霊を与え、神に生きる者に変える。

\* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 私たちは、好きというのと、愛する、の違いを混同していないでしょうか。

Q. どうしても好きになれない人がいるとき、どうしますか。体験はありますか。

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。